

熊本市 感染症発生動向調査 速報

現在の流行状況

蚊が媒介する感染症に注意しましょう！

デング熱(四類感染症)は、これまでアジア、中東、アフリカ、中南米、オセアニアで流行しており、国内では輸入症例として、これらの国からの帰国者が、現地で感染して帰国後に発症した例が、年間200例前後報告されています。

今回、国内感染例が確認されました。デング熱は、ウイルスを保有する蚊に吸血されることで感染します。確認された患者さんは、いずれも東京都の代々木公園の蚊による感染と推定されています。今後、感染が拡大する可能性は低いと考えられており、また、感染した場合も、一般に1週間前後で回復すると言われておりますので、以下の予防方法をしっかり行い冷静に対応しましょう。

蚊が媒介する感染症は、デング熱の他に、日本脳炎があります。県内では、現在、日本脳炎注意報を発令中です。蚊にさされないような対策や定期予防接種を受けるなど、しっかり予防しましょう。蚊に刺されて高熱等の症状が出た場合は、かかりつけの医療機関を受診してください。

【感染経路】

- ・ウイルスを保有する蚊(ヒトスジシマカ、ネツタイシマカ)が人を吸血することで感染する。
- ・人-蚊-人の経路で感染が伝播し、人から人への感染はない。
- ・ヒトスジシマカは、青森以南の地域で見られる蚊で、ネツタイシマカは日本には常在しない。

【症状】

- ・3～7日(2～15日)の潜伏期の後、突然の発熱、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、皮疹などの症状がみられる。
- ・通常は、1週間程度で回復するが、ごく一部の患者は重症化してショック症状や出血傾向を呈することがある。

【予防方法】

- ・特に日中、蚊との接触をさける。

①長袖、長ズボンを着用し、素足でのサンダル履き等は避ける。②虫除け剤の使用によって、屋外だけではなく、屋内でも蚊にさされないように注意する。③室内の蚊の駆除を心がける。④蚊幼虫の発生源を作らないよう注意する。

期 間		第34週		第35週	
		8/18～8/24		8/25～8/31	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		0	0.00	0	0.00
RSウイルス感染症		2	0.13	5	0.31
咽頭結膜熱(プール熱)		5	0.31	5	0.31
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		19	1.19	18	1.13
感染性胃腸炎		24	1.50	33	2.06
水痘(みずぼうそう)		9	0.56	6	0.38
手足口病		25	1.56	18	1.13
伝染性紅斑(りんご病)		2	0.13	0	0.00
突発性発しん		20	1.25	14	0.88
百日咳		1	0.06	0	0.00
ヘルパンギーナ		10	0.63	7	0.44
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		5	0.31	2	0.13
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		19	3.80	6	1.20
細菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
マイコプラズマ肺炎		1	0.20	1	0.20
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		1	0.20	0	0.00